

期末テストが終わり、1学期は残すところ1ヵ月となりました。来週は3年生が待ちに待った修学旅行があります。三重県ではコロナの感染拡大が収まりつつあるようですが、3年生には旅行当日までに体調を万全に整えて参加してほしいと思います。

生徒・保護者の皆さんへ

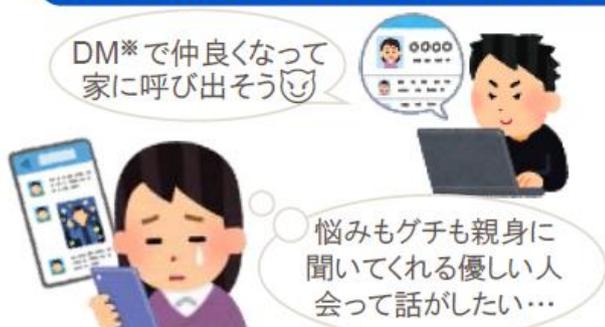
続・情報ネットワーク時代に気をつけたいこと

5月末に予定していたPTA主催の講演会「スマホ安全教室」は残念ながら中止となりましたが、7月には外部から講師を招き、生徒対象に講演会をする予定です。生徒たちにはしっかり学んでほしいと思っています。

さて、前回、総務省が発行している「インターネットトラブル事例集」から2つの事例を紹介しましたが、その続編です。

事例③ 心のよいどころだったSNS上の知人による誘い出し

ネットで出会った相談相手に会いに行き



※DMは「ダイレクトメッセージ」。複数の人たちとやり取りする画面を介さず、個人と直接やり取りできるメッセージのこと。

辛いことが続き、SNSにつぶやいていたVさん。気持ちが落ち着くメッセージをくれる人に出会い、DMでやり取りするうちに、会いに行くことになりました。

そのまま連絡がつかなくなってしまった



出かけたきり家に帰ってこなくなり、家族が警察に相談。誰にも言わずに会いに行ったことは、VさんのSNSの記録を確認して初めてわかったのです。

ストレスをネットにぶつけることで自分の気持ちをコントロールしたいと思う人は少なくないと思います。しかし、そんな心理状態や判断の甘さを知って、近づく**危険な大人がいる事実**もあり、誘拐事件や犯罪に巻き込まれることが起こっています。

思春期である中学生の頃は、ネットの向こうにいるのが悪い人かもしれないことを知りつつ、リスクよりも**そのときの感情を優先しがちな時期**です。**ネットで知り合った人に深入りしないよう「ここまで！」の限界を意識する**ことが危険回避の第1歩です。

特に**DM(ダイレクトメッセージ)によるやり取り**は、本人にしかわからないことから、犯罪に巻き込まれるなどの被害が後をたちません。「被害にあう人が特殊なだけ、自分は大丈夫」と**油断しない**ことが重要です。

【裏面もご覧ください。】

事例④ SNS等での誹謗中傷による慰謝料請求

有名人の悪口を匿名で投稿したら



テレビやネットでの言動が気に入らない有名人の悪口を匿名投稿したW君。同調する投稿も増え、根拠のない悪口など嫌がらせがネットに広まった。

発信者が特定され高額な慰謝料請求へ



W君が発信者だと判明したことから、虚偽の投稿内容により名誉を傷つけられたとして、慰謝料などを求める訴訟(裁判)を起こされてしまった。

SNS上で、悪意を感じる投稿を見かけることがあります。中には「正義感からやったこと」と主張する人もいるようですが、**“立場”や“事実かどうか”を問わず、人格を否定または攻撃するような投稿は正義ではありません。**

近ごろ、安易に再投稿したり、拡散する人が増えています。たくさんの悪口が集まれば、集団攻撃となって人をひどく傷つけます。相手がどのような人であっても、単に再投稿しただけであっても、警察や裁判所などに**訴えられ、責任を問われる可能性**があります。**投稿・再投稿する前に必ず「自分が言われたらどう思うか」を考えましょう。**

三重国体 “応援のぼり旗” 完成

今年9・10月、46年ぶりに三重県で「三重とこわか国体」が開催されます。四日市市でもいくつかの競技が行われますが、全国から訪れる選手たちを温かくお迎えするため、各中学校が手作り“応援のぼり旗”を制作し、各競技会場に展示する取り組みが行われています。

本校では美術部の生徒たちが14本の各都道府県の“応援のぼり旗”を制作し、先日完成。たいへん上手にできたので、国体事務局に渡す前に校舎内に展示しました。



また、各小中学校の児童生徒が国体の応援に参加することになっており、本校は「トランポリン」の応援に決まりました。人数制限があり、2年生だけの参加となりますが、9月6日(月)に四日市市総合体育館へ応援に行きます。

